

単元例3 「きらきらタイム」をしよう(小学部)

ステップ1 単元の構想(アイデア)

5年〇組の児童は、学習面やコミュニケーション上の課題では実態差が大きいですが、人との関わりを楽しみ、友達に親切にしたり、進んで手伝おうとしたりするところが特徴だ。
友達と多く関わる活動で、〇組の児童の「良さ」を生かしたい。

来年度は小学部の最上級生として、集会活動や発表会などでみんなのリーダーとして活躍して欲しい。
今から、みんなの前で発表したり会を進行したりするのは、来年度に向けたよい経験になりそうだ。

係分担をして、準備から児童と一緒に取り組むことで、「自分たちの発表会」という意識をもつことができるのではないかな。

児童が「自分たちでやり遂げた」という気持ちをもつために、演目の相談、道具作り、お客さんの招待など、発表会の準備を児童と一緒にやっていこう。

児童は、小学部の集会活動「わくわくタイム」の発表会で、6年生と教師が踊りや歌の発表をするのを楽しそうに見ていた。
発表を見た後、真似をして体を動かしたり、歌ったりしていた児童もいたな。

〇さんは、発表を見ているときに「一緒に踊りたい」と言っていた。
学年の発表会を計画して、児童の思いを実現させたい。

発表会の名前は、児童に分かりやすい名前にしよう。
児童が一生涯命取り組むきらきらした姿や、飾り付けた発表会の舞台の様子をイメージして、「きらきらタイム」というのはどうだろう。

「わくわくタイム」の発表を見た経験から、発表会へのイメージや見通しをもって取り組めそうだ。



「自分たちで発表活動をつくり上げる」ことをテーマにしよう。

単元名 「『きらきらタイム』をしよう」

期待する児童の姿

- ・準備や片付けを進んで行き、発表会を自分たちでやり遂げようとする姿。
- ・自分の係や役割を理解し、責任をもって取り組む姿。
- ・自信をもって発表し、充実感や達成感を味わう姿。

小学部高学年の児童としての役割を意識し、児童が中心となって発表活動をつくり上げることを目指した実践事例です。

ステップ2 単元指導計画の作成

単元づくりに当たって

- ・「発表会をつくり上げる」ことを中心に単元を展開していき、児童の期待や意欲を高めていきたい。
- ・生活単元学習の時間とは別に、発表するダンスや歌は、しっかりと練習できるようにしたい。



- 生活単元学習の時間で充実した活動が展開できるよう、他の教科等との関連を図りながら単元を構成する。
- 他学級や学年、保護者に呼びかけ、予行演習や当日はできるだけ多くの人に見てもらえるようにする。

「きらきらタイム」をしよう (全10単位時間)		他の教科等との関連		
主な学習活動	ねらい	音楽	図画工作	日常生活の指導
「わくわくタイム」をやってみよう (1単位時間)	・「わくわくタイム」の様子を映像で見て、発表会のイメージをもつ。 ・好きな演目や体験してみたい内容について話し合う。	「わくわくタイム」体験	発表会に必要な道具作り ・小道具 ・会場の装飾 ・招待状	道具の出し入れ、片付けのし方 衣装の着方、たたみ方
発表会の準備をしよう (5単位時間) ・発表会の進行の準備 ・発表の練習	・発表会に必要な道具や、係の仕事を覚えて自主的に活動する。 ・進行や挨拶などの役割を理解し、意欲的に練習に取り組む。 ・活動への見通しをもち、発表会への期待感をもちながら準備をする、 ・友達と仲良く係の仕事を行う。			
「きらきらタイム」発表会をしよう (3単位時間) ・予行練習 ・本番 保護者会の日に設定	・舞台の配置や道具の出し入れ等を含めた発表会の練習を行い、本番への見通しや期待感を高める。 ・自分の役割を意識し、責任をもって行動する。 ・友達や保護者に見てもらいたいことを喜び、自信をもって発表する。			
「きらきらタイム」を振り返ろう (1単位時間)	・友達や自分の頑張ったところを認めあい、発表会の満足感を味わおう。			

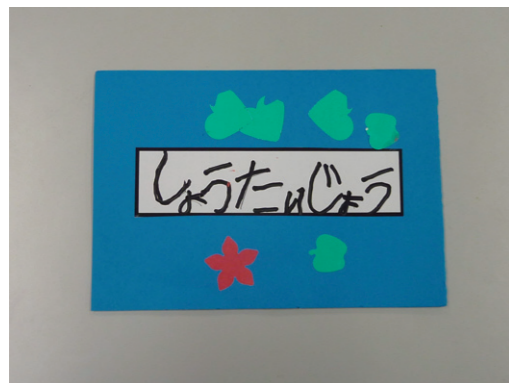
ステップ3 授業実践

～ 一人一人が「できること」を発揮するための支援の工夫～

発表会の準備

* 招待状作りでは、児童がそれぞれの力を発揮できるように、平仮名を書く子、なぞり書きをする子、文字シールを貼る子、飾り付けをする子など役割分担をして、みんなで一枚の招待状を仕上げました。

作成した招待状は、各家庭に持ち帰り保護者に渡したり、休み時間などを使って、他学年の先生に招待状を届けたりしました。どの児童も招待状作りに関わったことで、「自分がつくった招待状」という意識をもって届けることができました。



発表会の係分担

あいさつ係
めくりプログラム係
準備・片付け係

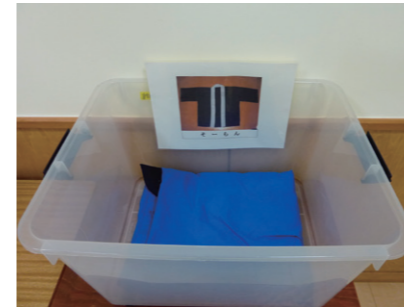


* 緊張しがちな児童のために、事前に挨拶を録音し、当日困ったときにはボタンを押すことを係の児童と話し合っておきました。事前に準備しておいた安心感から、当日はしっかりと挨拶の役割を務めることができました。

* 図画工作の時間に、会場の装飾品や、踊りのときに使う大きな旗などを作りました。



「きらきらタイム」発表会



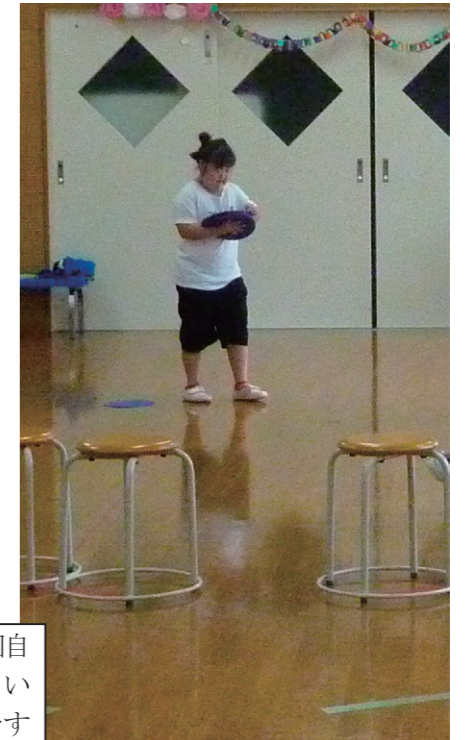
* 衣装のはっぴや豆しぼりを自分たちで準備し、片付けることができるように、専用のボックスを作りました。

教師が一つ一つ指示をしなくても、自分たちで衣装の準備や片付けができるようになりました。



* 係の仕事は複数で行い、友達と一緒に行動し、力を合わせて取り組む場面をもてるようにしました。進捗状況は、全員で確認できるようにホワイトボードに示しました。

* 練習では、準備や片付けも毎回自分たちで行いました。発表当日、いつものように自分たちで準備をする姿に、保護者やお客様から「すごいね」と驚かれました。



* 本番の発表では、大勢のお客様を前に、緊張していたようですが、いつもの練習どおりに発表することができました。

発表後、他の学年の友達や先生、保護者から感想を聞く場面をつくり、多くの人からお褒めの言葉をもらいました。

児童が主体的に活動できるようにするためには、児童が動きやすいように物の置き場所を考えたり、一人一人の児童が自分でできるための教材の工夫をしたりすることが必要だということが分かりました。

発表会を終えた後の一人一人の満足そうな表情が印象的でした。

